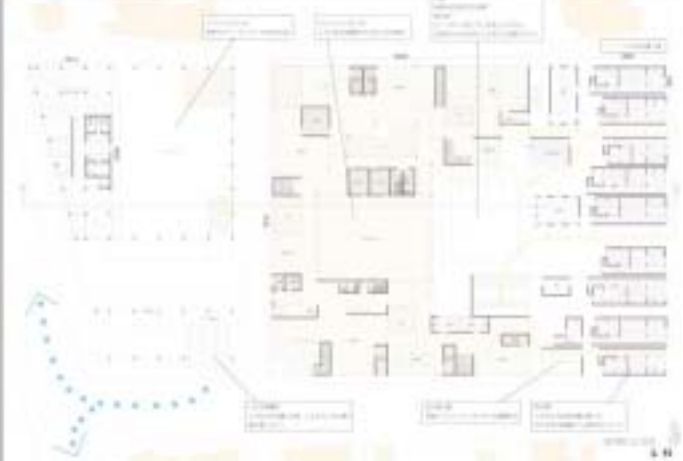
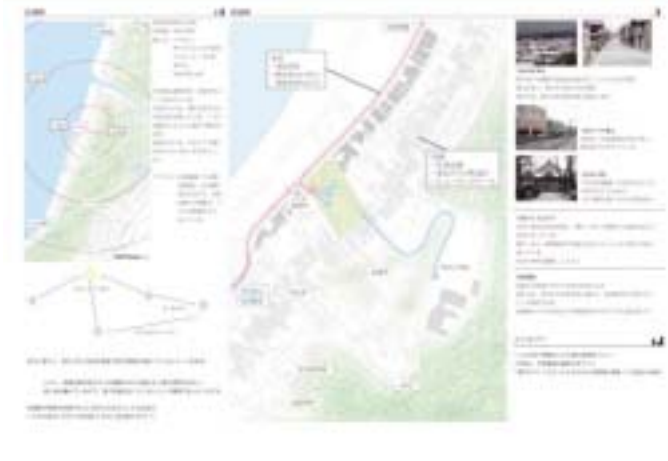
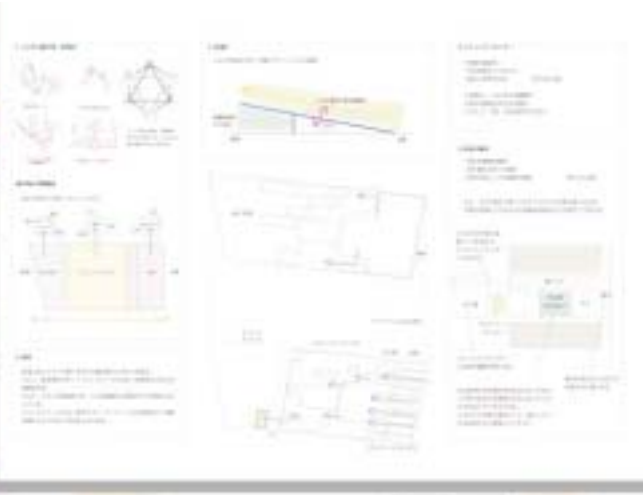




# こども達の居場所 - 今日はどこで遊ぶのかな -



山田 飛鳥 (やまだ あすか)  
東京電機大学 未来科学部 建築学科



ここは新潟県長岡市寺泊町。漁師の町、史跡の町として知られている。旧道沿いには現在も昔ながらの町並みが残っており、新道沿いには寺泊アメヤ横丁を中心に観光客でにぎわいをみせている。一方で過疎化による人口減少の傾向にある。

地方と聞くと、自然が豊富で遊び環境が充実しているイメージがあるが、実際は都市部のような整備された公園もなく、遊び場所は少ない。家と家の距離が離れていることにより、遊ぶ友達が多くにいたり、コミュニティが築きづらかったりする。

そこで、地域の中にコミュニティを形成する。その中で大人に見守られながら子ども達は放課後の時間を遊ぶ。こども達の遊ぶにぎわいが、地域のにぎわいとなって波及していく。

### 講評

子供達の放課後生活空間を、失われつつあるコミュニティーの再生と併せて創ろうという提案である。海辺の漁師町、衰退する地方都市の街中は周囲の自然豊かな環境とは裏腹に、子供達の生活環境としては都市部よりも貧しいと言う実態を、何とかしたいと言う作者の強い思いが込められている。その方法は、通学路となる学校と町を結ぶ新旧道路の間にコミュニティー施設を設けその上の大屋根を緑化して立体的遊び環境を創る。昔ながらの住宅を併設する事で「見守り」環境を創り、また、新旧道路をこの施設でつないで賑わいを取り戻す試みである。現実的テーマ設定、パースに描かれるファンタジックなそのイメージは作者の素直な人柄が想像されて共感できる。しかし、巨大建築を新たに造る事で環境を生み出す発想は、経済的に疲弊する地方都市にとってどうか？むしろ、学校や寺、空家等、既存施設の空いた時間と空間を使って新たな遊び場を生み出すと言う発想が、より現実的、創造的可能性を持つのではと思われる。(審査委員：柳田 富士男)